



Good Wood Communication!

かけがいの森から



今年掛川市森林組合設立50周年
—昭和38年の合併より—

半世紀、みなさまのご愛顧に御礼申し上げます

昭和38年、原泉・原田・桜木・西郷・倉真の旧村5地区の森林組合が合併し、掛川市森林組合が誕生しました。おかげさまで今年、設立50周年を迎えることが出来ました。組合員、関係機関の皆様にご礼申し上げます。

この半世紀は森林・林業・山村にとって激動の時代だったと思います。当組合が歩んできた50年を、いくつかの切り口で振り返ってみたいと思います。

組合員・出資金

組合員数は設立当時から、大きくは変わっていません。設立当初は430名。現在450名です。出資額は当初220万円に対し、増資を続けた結果、現在3千2百万円となっております。



組合長・役員

初代組合長は西郷の中山吉平さんでした。その後、間もなく榛村純一組合長が就任し現在に至ります。専務理事を勤められたのは居尻の佐藤績さん、上西之谷の草賀文雄さんです。大嶽専務が就任されてからは24年になります。

職員・従業員

職員として長年勤められたのは天野幸雄さん・中山忠一さん・原れんさんです。他には天野房治さん・五月女靖雄さん、佐藤あい子さんたちが活躍されました。その後、尾崎・今橋らが就職しています。

現場で活躍されたのは、杉山連平さん・原惟司さん・須和部義男さん・竹山作之助さん・原ト子さん・須和部敏子さん・寺田幸三さんなどです。

昔は地元の方がほとんどでしたが、最近は地区外から通う人が多くなっています。

木材価格・素材生産量

木材価格のピークは昭和51年でした。スギ・ヒノキとも現在の4〜5倍ほどの値段でした。山が潤っていた時代です。当組合でも一時は大嶽専務を中心に立木買い取りの林産事業を強力に進めた時代がありました。その後、需要減や外材・国内の安い製品の影響を受け、価格は下落の一途をたどります。現在はスギ8千円・ヒノキ1万円です。丸太の取扱量はピーク時に1万8千立方、その後価格の下落と共に減少しゼロに近づきます。最近では公共的な間伐事業や間伐材の搬出奨励策により出材量は増加に転じています。



★詳細については、50周年記念誌「50年のあゆみ」として編集し、秋に組合員の皆様に配布する予定です。

50周年の記念総会が開催されます ~8月29日(木)です~

第52回通常総会が8月29日、掛川市生涯学習センターで行われます。今年の総会は50周年の記念総会となります。(当組合は初め3月決算でしたが途中6月決算に変更されました。3ヶ月で決算を行った年度があり第52回となっています。)



今年の総会では通常議案とともに、役員改選の議案が上程されます。また、総会後には「森林組合50年の歴史と今後の展望」と題し、組合長の記念講演が行われます。50年を総括し、新しい50年のスタートとなる記念総会に、ぜひご出席ください。

新入職員2人 暑い夏に奮闘中!

50周年記念の年に就職した職員、須藤と本目2人が現場で奮闘しています。今年は梅雨明けが早く、その直後は猛暑日が続いています。厳しい作業環境ですが、なんとか先輩たちの指導の下、作業を一つ一つ覚えていく最中です。最初の夏を乗り切れるか? 大きな山場ですが頑張って乗り越えてほしいです。



森林組合長50年 任期日本一 榛村純一 組合長

現在御年79歳。という事は29歳で組合長に就任されたということです。(すっぴー) 以来50年、組合長としてお務めになっています。その間には掛川市長を7期28年、静岡県森林組合連合会長を20年、他にも大日本報徳社社長、全国茶業会議所会頭など、多くの要職を歴任されています。森林組合長としては全国で一番長くお務めです。元気の秘訣を伺うと「いつもテーマの違う何冊かの本を、同時に読んでいます。いろいろなことに興味を持って、面白いと感じることが元気の秘訣だよ」とのことでした。

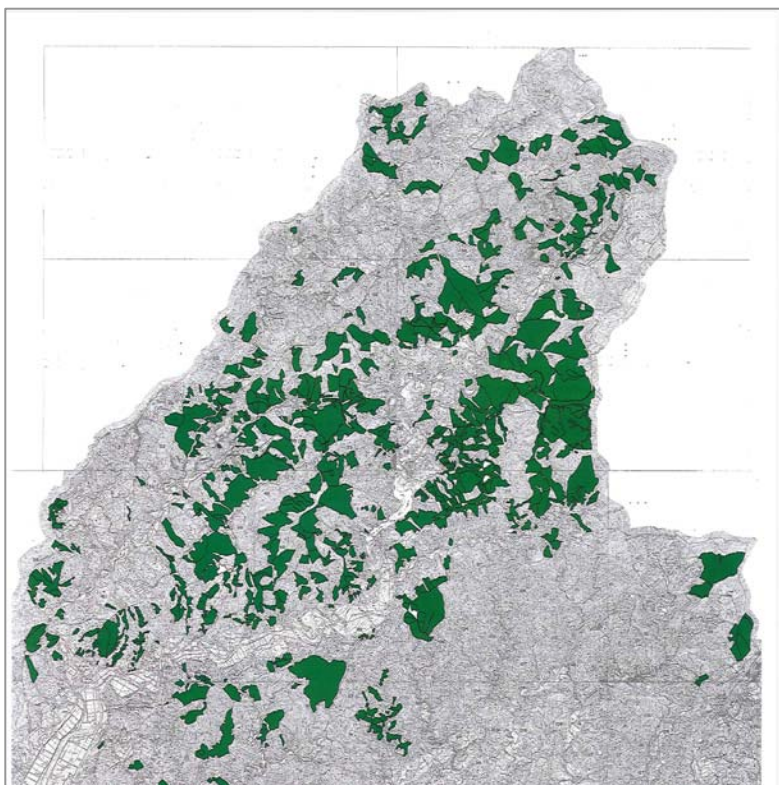
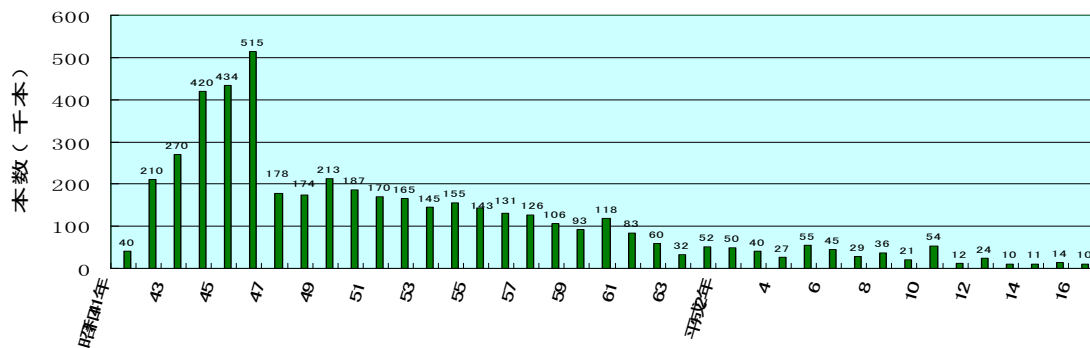


伐って植えて育てた50年 森林資源は 活用し循環させる50年へ

山行苗木の取扱量と
近年の間伐履歴 から見る
掛川北部の森林資源

右表は当組合のスギ・ヒノキ苗木の取扱量の履歴です。
昭和44～46年に特に扱いが多かった事が分かります。
苗木の取扱量は植林面積に比例するので、この頃に、
市内の造林面積が最も多かったこととなります。
昭和46年は51万本の取扱いですので、1年で約170haの植林がなされた計算です。
その後、素材生産量（皆伐施業）の減少とともにどんどん減っていきます。

山行苗木取扱履歴



一方、左図は最近10年間の間伐の施業履歴図です。
様々な事業を活用しながら、市内北部山林の森林整備を行ってきました。
間伐対象林齢は主に40～50年生ですので、
上で記した昭和40年代植林地の間伐を、行っていると考えられます。
先人たちが植え、育ててきてくれた掛川北部の山は、
近年の間伐作業により目揃えされ、さらに資源として充実しつつあります。
市内の森林蓄積は180万m³に達すると見込まれます。

これからの50年、
この森林資源はどうなっていくのでしょうか？
木が大きくなっておしまい・・・ではなく、
資源を活かし、新たな循環を生み出していくことが
これからの私達の使命だと考えます。

組合員の皆様をはじめ、関係機関の皆様のご理解、
ご協力を、引き続き宜しくお願い申し上げます。



夏は 温泉×キャンプ場「ならこ」へ！

「泉質はこのあたりでは抜群だね！」
「東名やバイパスから近くて利用しやすい！」
そんなお客さんの声も多いようです。
キャンプするならこ！
温泉ならこ！
みなさま是非
お出かけください！



“これいい！” 購買担当「藍ちゃん」の **オススメGOODS!!**

- ・森林香 ￥1,130
- ・携帯防虫器 ￥1,000

山仕事やレジャーなど、アウトドアのお供に。
ケムリの量が多いので、防虫効果抜群！！
専用の防虫器に入れて携帯できます。

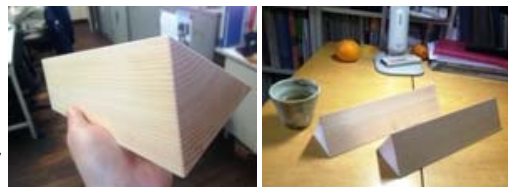


組合員さまへのお願い

相続等で所有山林に移動（相続・取得・売却）が生じた際は森林組合へ
ご一報ください。組合員名簿および出資証券の名義変更が必要です。

ひとこと 先日「掛川産材」卓上のネームプレートのご注文をいただき、
製作、納品をさせていただきました。（プレートといっても形は三角柱です！）

ヒノキ間伐材の根元のはねだし部
分ですが、年輪は密で、柃目が美
しい仕上がりになりました。今頃
は名前が入って、活躍してるかな～



掛川市森林組合 TEL 0537-25-2111

掛川駅に地元の材を！ 新駅舎の材料を支度しています



JR 掛川駅北口の木造駅舎
の建替え工事が進められて
います。この工事は耐震性の
問題からJRが全く新しい駅

を建設する予定だったものです。それが市民運動に
より「木造駅舎を保存・活用する会」が発足し、六
千万余りの寄付が集まり、建替工事を追加負担す
ることで木造駅舎の外観保存が実現しました。

森林組合では、市内の製材会社とともに、新材を
使う場合の「地元材活用」を
要望してきましたが、一部が
認められ、只今材料の支度を
しております。旧材と新材が
あいまって、どんな駅舎がで
きるかとても楽しみです。



5寸柱用の材料（ヒノキ）